

■ロシア：ロシア極東と日本の系統を海底ケーブルで結ぶ連系計画が再浮上

極東の電力持ち株会社である RAO ES Vostoka のブラゴディリ社長は 2011 年 3 月 19 日、サハリンのエネルギー会議において、ハバロフスク地方、サハリンおよび日本の電力系統を海底ケーブルで連系する計画を提出した。海底ケーブルによる連系の構想は、日本が東北関東大震災にあった翌日 3 月 12 日にセーチン副首相（エネルギー担当）が口にしたもので、極東から供給可能な容量を 600 万 kW、海底ケーブルの敷設工事期間を 2 年間とみている。また、イシャエフ極東管区大統領特別代表は 3 月 21 日、同プロジェクトの総工費が 1,860 億ルーブル（約 5,600 億円）と見積もられている、と記者団に述べた。日本との連系計画は過去にも存在し、2003 年には旧 RAO EES と住友商事が協力に関する議事録を残している。当時、総工費は 19 億ドルと見積られていた。